

春日井ロータリークラブ

2011~2012 年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

仲間を増やし、 思いや*りの心を育もう*

会 長:風岡 保広 例会日:金曜日 12:30~13:30 副 会 長:清水 勲 例会場:ホテルプラザ勝川

幹 事:北 健司 事務局:春日井市鳥居松町 5-45 会報委員長:志水ひろみ TEL:(0568)81-8498 FAX:(0568)82-0265

E-mail: ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp



本日のプログラム

司会 加藤久仁明君

・点 鐘 風岡 保広君

・国 歌 「君が代」 ・ROTARY SONG 「日も風も星も」

・ビジター紹介 風岡 保広君

・食事・歓談・委員会報告

・会長挨拶 風岡 保広君

・春日井消防署 職員表彰

・卓 話 春日井消防長 伊藤 敬氏・幹事報告 北 健司君・点鐘 風岡 保広君

先週の記録

会長挨拶 会長 風岡 保広君

先週の、4月第2例会は、家族会ということで京都の方へ行ってまいりました。桜はもう遅いかと思っておりましたが、今年は開花がすこし遅れておりちょうど満開というタイミングのよさで、古都の1日を満喫してまいりました。

この4月は、「ロータリーの雑誌月間」に指定されており、クラブはその月間中に雑誌に関するプログラムを実施しなければならない、というふうになっております。

春日井ロータリーもクラブ計画の中で、雑誌・資料委員会として、「ロータリーの友」・「ガバナー月信」等の愛読を勧めるとともに、其のほかRI情報の提供をしながら、会員資質の向上をはかる。となっております。大変目立たない事業ですが、広報委員会と連携して、一般にもクラブのPRをしながら、会員増強につなげていくようにしなければいけないと思います。

今日は、春日井警察署員の皆様の表彰ということ

2012年5月11日(金)第2091回(5月第1例会)

で、警視正であられます春日井警察署の折小野(おりこの)署長さんをはじめ署員の皆様においでいただきました。特に折小野署長さんには、異動で春日井署においでになったばかりで、大変お忙しいなかロータリーのために卓話をしていただきます。一つよろしくお願いいたします。

幹事報告 幹事 北 健司君

第 11 回理事会開催の案内

日時:5月11日(金) 11:30~

場所:カウンシルルーム 出席予定者:理事・役員

地区役員及び会長幹事懇談会開催の案内

日時:6月9日(日)

式典・懇親会:18:00~20:30

場所: 名鉄グランドホテル 11F 柏の間

出席予定者:会長・幹事

第1期 RLI 分科会研修パート 開催の案内

日時:5月27日(日) 09:00~19:00

場所:名古屋国際ホテル

出席予定者: 名畑 豊会長エレクト

例会変更のお知らせ

| 瀬戸 | 5月23日(水) 5月23日(水)6:00~ | |
|------|-------------------------|--|
| R C | 早朝移動例会の為 定光寺 | |
| 尾張中央 | 5月23日(水) 5月23日(水)18:30~ | |
| R C | 夜間例会の為名鉄グランドホテル | |
| 一宮中央 | 5月23日(水)5月19日(土) | |
| R C | 親睦旅行の為一奈良方面 | |

出席奨励月間

| | 4/11/2/4/2017/31/3 | | | | |
|---|--------------------|-------|-----------|--------------|-----------|
| 例 | 5月18 | 日(金) | 5月25日(金) | 6月1日(金) | 6月8日(金) |
| 会 | 祝福 | | ロータリーの森例会 | 理事役員会 12:30~ | 祝福 |
| 予 | 卓話 小島 | 島 啓冶君 | 12:30~ | 卓話ホテルプラザ勝川 | 卓話 大橋 完一君 |
| 定 | 卓話 高村 | 禹 理江君 | | 大鹿 裕司氏 | 卓話 中川 健君 |

ホームページ: http://www.kasugai-rc.jp E-mail: ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

| 名古屋城北 | 5月15日(火) 5月15日(火) | | | |
|--------|--------------------------|--|--|--|
| R C | ロータリーロード植樹の為 茶臼山 | | | |
| 名古屋丸の内 | 5月17日(木) 5月17日(木) 18:30~ | | | |
| R C | 夜間例会の為クレストンホテル | | | |
| 名古屋みなと | 5月18日(金) 5月19日(土) | | | |
| R C | 家族会の為の京都方面 | | | |

| 出席報告 | 委員長 | 蓮野 美廣君 |
|----------|---------|-----------|
| 会員 52名 | 欠席 13 名 | 出席率 84.8% |
| 先々週の修正出席 | 欠席1名 | 出席率 98% |

ニコボックス報告 委員長 中川 健君

折小野署長さんのお話を拝聴できる喜びで。 風岡 保広君

折小野署長さん本日はありがとうございます。 太田 弘道君

折小野署長さんのお話楽しみにしています!! 近藤 太門君

警察署長の卓話を聞く楽しみで。宅間 秀順君 親睦委員会の皆さん、京都家族旅行お世話にな りました。 北 健司君

先日京都家族会お使いありがとうございました。 伊藤 純君 いつもホテルご利用ありがとうございます。

早川・八郎君

卓話を聞く喜びで。

足立 治夫君 林 鑛三君 林 徹君 磯野 俊雄君 加知 康之君 加藤 茂君 加藤 宗生君 貴田 永克君 小島 啓治君 中島 宗幸君 成瀬 浩康君 名畑 豊君 大橋 完一君 岡田 義邦君 志水ひろみ君 社本 太郎君 清水 勲君 高橋 理江君 峠 テル子君 塚本 兼光君 梅田 英夫君 和田 了司君 屋嘉比良夫君 山田 治君 ニコボックスご利用ありがとうございます。

中川 健君

卓話 愛知県春日井警察署長 折小野裕之氏 現代社会における危機管理

まず、はじめに危機管理という言葉についてですが、私たちの身の回りで起きるさまざまな出来事や国家、地球規模で発生する事案、自然災害など、私たちが生活していくために障害となりそうな危険な出来事を如何に早く察知してこの危険を避けるか、または、発生した危険をどれだけ軽微にするかということであります。

言葉ではこういった風に言い表せますが、実は、 危機管理はわれわれ人間が持ち合わせている本能 であります。

人には誰にも危険予知能力があります。この能力を研ぎ澄ますことによって危機に遭う確率が低くなりますし、危機に遭っても被害を最小限にと

どめることができます。長い間、人はそうして生きてきたのだと思います。動物でも天敵から逃れるためにこの予知能力を発達させたものが、この時代に生きてこられたのではないでしょうか。

しかし、最近はその予知能力が弱ってきている のではないかと感じることが間々あります。

われわれ警察は、危機管理官庁のひとつと言われます。その中で長いこと仕事をやっていますと 現在の日本社会が危機に対してあまりにも脆く、 また、日本人そのものの感覚が鈍ってきていると 感じております。

昨年発生した未曾有の大地震と津波を伴った東日本大震災とそれに伴う東京電力福島原発の事故は、私たちにとって忘れられない出来事となりました。そして、その対応が1年たった現在もさまざまな形で私たちの生活に影響を与えています。この時も自治体や政府、東京電力などの危機管理体制が非難されました。

また、つい先週の出来事であった北朝鮮のミサイル発射騒動についても、ミサイル発射は失敗に終わりましたが、その対応をめぐって、政府防衛省の危機管理が問題として取り上げられています。

このような国家単位の危機からわれわれの身近で起きる事件や事故などの危機に対する防衛本能が鈍ってきており、その対応が後手後手になって事案が拡大していくといったことが繰り返されているように思います。

これからいくつかを例としてお話して、皆様が 現代社会で生きぬくために危機管理を肌で感じて いただければ幸いだと思います。

私は、警察の中でも皆様、聞きなれないかもしれませんが、外事警察という分野の仕事に長く携わりました。日本の国益に直接関係する仕事です。 国益といってもいろいろありますが、外国からの諜報謀略活動に対するカウンターインテリジェンスや先端科学技術の不正輸出防止、国際テロ対策、不法滞在者などの来日外国人対策など対外的な分野を受け持つ仕事です。

この仕事を通じて日本及び日本人が、世界で先 進国と呼ばれる国の中で如何に脇が甘いかという ことを痛切に感じてまいりました。

まず、国家単位の例を挙げます。

「エシュロン」という情報組織があります。これは、アメリカを中心にイギリス、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアの英語圏 5 カ国で構成する主に電波情報を収集分析する組織です。世界でもあまり知られていない秘密組織です。この組織が何をやっているかというとそれぞれの国に設置された大使館や外国商社などの通信を傍受し、それを解析します。その情報を入手します。その中には、軍事情報や経済情報、商談情

報などあらゆる情報が存在します。

例えば、ある国で日本の商社がレアメタルの生産を手がけ、輸入する商談を行っているとします。この商談を進めるため、現地商社は本社とのやり取りやあるいは国の後押しを受けるために大使館等の力を借りて商談を進めます。これらの商談には、値段や条件的なものなどさまざまな情報が本国との間でやり取りされます。この過程でいち同社に情報を流し、日本の商社より良い条件を示し、その商談を横取りすることが可能となります。実際にあった話で、日本商社や日本大使館の情報が取られ、原子力発電やレアメタルの商談が取られています。

もうひとつ情報関連の例を挙げます。アメリカの CIAの情報収集と活用の方法です。

ご存知のようにCIAは、世界を代表する対外情報機関ですが、冷戦時代は主に共産圏諸国に対する軍事や政治関連情報の収集に力を入れていました。しかし、冷戦後、その活動は、経済分野の情報収集にも大きな力がシフトされるようになりました。その中で、彼らが使っている機関員がNOCS(ノックス)といわれる情報機関員です。CIAの情報活動は、大使館員等の公的な身分で勤務するOCS(オフィシャルカバーズ)と一般の会社員や商社員の身分で勤務するNOCS(ノンオフィシャルカバーズ)の機関員によって情報収集がなされます。

このNOCSの機関員は日本にもたくさんいます。数年前、アメリカで起こったトヨタ社のブレーキ 欠陥に伴うリコール運動を覚えていますか。この 運動の発端はNOCSが還啓していたと言われて います。当時、アメリカは基幹産業の自動車業界 が軒並み経営不振でビッグスリーと言われる自動 車会社も会社更生法の適用を受ける程になっていました。その中でトヨタだけは、世界一の販売量 を誇り、米国でも相当の人気がありました。そん な状況で、アメリカは自国の基幹産業が不振にあ えいでいることに大きな危機感を持っていました。 それを立て直すためにトヨタに焦点が当たった訳 です。同盟国といえどもこれが米国流の国益保護 です。

この時、NOCSによって集められた情報は、トヨタの開発プログラムやリコールに関する内部情報だと言われています。これらの情報は集約されて保守的な政治家に流され、米国内で多くの訴訟事案を引き起こし、トヨタはそれに対応せざるを得なくなりました。

結果的にはブレーキの欠陥はなかったとの裁判所 の判断が出ましたが、トヨタはこの処理で莫大な 費用を使わざるを得ませんでした。この間にアメ リカの自動車業界は立ち直りました。 このように、この二つの例は、国家が介入して自国の危機管理のために情報を活用した例です。 では、日本人の危機管理意識についてひとつ例を 挙げます。

中央アジアに元ソ連邦を形成していたキルギスという国があります。ここで1999年8月23日にイスラム過激派による日本人人質事件が発生しました。三井鉱山の技師として鉱山開発調査に派遣されていた4人の日本人がイスラムゲリラに拉致されました。当時の情勢は、イスラム過激派勢力が、イランからアフガニスタン、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタンを中心とした地域に一大イスラム国家を形成しようとする動きがあった時代でした。タジキスタンでは同時期、外務省に出向して現地調査を行っていた北海道大学の秋野豊教授がイスラムゲリラに殺された時期でもありました。

私は当時、外務省に出向して在モスクワ日本大使館で勤務していました。この事件が発生して直ちに現地に行き、現地対策本部の立ち上げを命じられました。解決まで約2ヶ月かかりましたが、人質は全員無事解放されました。しかし、この時、現地のアメリカ大使館員から日本の危機管理は全くなっていないといわれました。現地の情勢は日々変化しており、危険な状態にあったにもかかわらず、そうした情勢が現地の日本人に全く伝えられておらず、なるべくしてなった事案であると言うことでした。

この時、アメリカはどうしていたか、彼らはこう した情報を刻々と分析して現地のアメリカ人に伝 えていたということでした。

こうした話を聞いてつくづく情けなかったこと を覚えています。

皆さんも海外旅行をされると思いますが、個人 的な日本人の卑近な失敗事例を危機管理意識と捉 えて紹介します。

日本人は長い間「水と安全はただ」という意識を持って生活してきました。海外旅行をするとこの意識が全く通用しないという例です。

韓国に旅行をしました。喫茶店に入ってコーヒーを注文しました。ウエイトレスが水とコーヒーを持ってきました。いつもの習慣で水を一口含んでコーヒーを飲みました。とたんに激しい腹痛と吐き気に見舞われ、救急車で病院に運ばれ点滴を受ける羽目になりました。夜になってバーに行きました。ウィスキーのロックを注文しました。飲んでいるうちにだんだんおなかの調子が悪くなり、トイレに駆け込み激しい下痢になりました。

これらはいずれも水や氷というものに日本と同 じ感覚で接したにほかなりません。

ロシアに旅行しました。町を見学していると誰 かが後ろから急いで追い越していきました。そし て、追い越しざまビニール袋を落としました。お 人好しな日本人は「落としましたよ」と声を掛け ましたが、相手は聞こえないのかそのまま走り去 ってしまいました。仕方ないのでビニール袋を拾 った日本人は、袋から透けて見える中身がお金で あることに気が付きました。警察に届けなければ と思い、警察を探そうとしていると通りかかった ロシア人が声を掛けてきました。日本人がいきさ つを説明するとロシア人は、「そんなものを警察 に届けると警察が懐に入れるだけだ。二人で山分 けしよう。」と言ってきました。そうこうしている 内に先程袋を落とした男が戻ってきて落し物がな かったかを尋ねてきました。心配していた日本人 は、拾った袋をさしだしました。ロシア人は礼を 言いながら袋を確かめました。そして、お金が足 らないと言い出し、日本人に「お前が盗んだので はないか。」と言いがかりをつけてきました。日本 人は「そんなことはない。」と言いましたが、相手 は納得しません。相手は、財布の中身まで確かめ、 ようやく納得し、所持品を返して去っていきまし た。やっと安堵した日本人は、所持品をしまう中 で財布を確かめると財布のお金が消えいていまし た。先程山分けを働きかけてきたロシア人もいつ の間にかいなくなっていました。

このように数え上げれば限りがありませんが、 日本国内では起こることがないと思っていること が実際起こるのです。被害に遭うのはいつも日本 人なのです。

こうした例を見れば、私たち日本人が如何に危機に対応する能力が衰えているかがわかります。

危機管理の要諦は、まず第一に情報です。情報 を如何に早く収集して活用できるかにかかってい ます。

次に危機が発生してからの対応を如何に早く前 広く対応できるかで拡大防止を図ることができま す。

そのためには、事に当たって事前の知識をどれ

だけ持って、それをかつようできるか、すなわち、 いざという時の具体的なマニュアルを持っている かといういうことが重要です。

現在の社会変化はめまぐるしいものがあります。 現代社会を生き抜くために変化に耐え得る危機管 理を行っていくことが、個人としても企業、団体 としても必要なのではないでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。



(会長挨拶)



(春日井警察署 職員表彰)



(卓話 春日井警察署長 折小野裕之氏)

